

最優秀賞
+
オーディエンス賞

A-1

絵本だけの移動図書館

GOOD!

絵本の読み聞かせや
絵本づくり体験!

GOOD!

交流イベント&
子育て支援ブースも

「絵本だけ」の移動図書館

コンセプト

子ども連れのパパ・ママが集まり、
交流できる場所を提供する。

「理由」

三河安城には若いパパ・ママが多く、
イベントを通じて交流の場を設けたいと思った。
その際、子どもも楽しめるようにしたいと思ったから



GOOD!

離乳食も扱う
キッチンカー

体制

- 1 図書館から絵本を集めて
ツインパークで展開する。
- 2 キッチンカーを借用し
大人も子どもも楽しめるようにする。
- 3 フリーマーケットやマルシェを展開。
- 4 子育て支援の相談ブースを設ける。
- 5 絵本づくりの体験会
- 6 絵本のよみきかせ

実現方法

・安城市が主体となり広告を行い
参加者を募集する。→ 国・団・個
・絵本づくりの体験会では実際、絵本作
家の人も来てもらい、楽しんでもらう。

つかってみた!



アイデアを
実現しました

受賞者コメント

安城農林高等学校 動物科学科 大場梨乃さん



人生初のプレゼンに緊張しましたが、質問や意見がもらえたこと、また多くの人がまちについて考えているのを知れたことは良い経験でした。いろいろなアイデアが実現できる、元気なまちになってほしいと思います。

作品概要

子連れのパパ・ママが集まり、 交流できる場を提供したい

三河安城駅から一駅先にある図書館まで子どもを連れて移動するのは大変。また周辺エリアには子育て世代が多く、パパ・ママが集まりイベントなどを通じて交流できる場を提供したいという想いから、移動式の図書館を提案する。「絵本」にこだわるのは、幼い子どもにも本を好きになってほしいから。屋外に設置するため気兼ねなく本が楽しめるし、キッチンカーやマルシェ、子育て相談ブースなどを併設することで、一日じゅう楽しく過ごせると考えた。

審査講評・コメント

FROM 吉村 委員長

自分の好きなことや関心のあることに取り組むことは大事である。また、自分が観察しているなかで気になることに対して、解決に向けて取り組むことも大事である。

FROM 鈴木 委員

プレゼンを聞いていて、これから三河安城のまちが楽しくなっていくシーンが想像できた。ちょっとしたことですぐ教わる人たちがいるので、頑張って実現してほしい。

FROM

つかう . meet

暖かな日差しの下、絵本を読みながら親子がのんびり過ごす光景が目につかなくて、ほのぼのとした気持ちになりました! また子育て世代が集い、新しい本だけでなくさまざまな人と会うことで、まちなかが賑やかになる。そんな日を楽しみにしています。

GOOD!

ほかの施設にアクセスさせる
きっかけづくり

スポーツの町 としてつかう安城

優秀賞

A-3

スポーツの町としてつかう安城



新幹線高架下



この取り組みで期待できること
・安城市をスポーツのまちとして新たにブランディングできる
・多目的交流拠点に集まる人が立ち寄りやすい環境を整えることで、ほかの施設などに誘導しやすくなる。
・健康増進につながる。また、子どもも楽しめる施設を整えて、市民の健康をサポートできる
・スポーツコートなど、本来は使っていないところでの運動が促されているスポーツをできる場所にするすることで、地域の活気をよめることができる
・地域のイベントを行う場所としても活用できる

GOOD!

運動不足を解消!
市民の健康をサポート

受賞者コメント

安城東高等学校美術部 山並遥人さん ほか1名



気楽に手軽にスポーツと触れ合える、生活の一部にスポーツが寄り添ってくれる。この提案が、三河安城に新しい風を吹かせます。アイデアの実現に向けて、私自身も引き続き積極的に取り組んでいきたいと思っています。

つかうイメージ!



作品概要

「スポーツのまち」として 三河安城をブランディング

アリーナの新設に合わせて、バスケットボール以外のスポーツに触れられる仕掛けをつくることで魅力を補強し、三河安城を「スポーツのまち」としてブランディングしていく提案。駅前広場と高架下には、バスケットゴールやスケートボードパークなどを設置し、アリーナ以外の施設に立ち寄りてもらいきっかけに。また、ボランティアをはじめ地域に幅広い協力を求めるとともに、健康づくりもサポート。市民が「まちをつかう」取り組みとして育てていく。

審査講評・コメント

FROM 野原 副委員長

自分たちの力で「三河安城をスポーツのまちにするぞ!」という気合いに圧倒された。スポーツカルチャーのメッカに、自分たちの場をつくりましょう!

FROM 田中 委員

屋内で行われているスポーツを、みんなが見える屋外でのびのびできると良いと思う。ただ施設を活用するだけでなく、まちをつくるプロセスに触れていることも大事な部分。

FROM

つかう . meet

スポーツを身近に感じられる工夫が良いと思います。すでに人気のバスケットやスケボーだけでなく、運動不足解消をはじめ、多くの方がいろいろなスポーツを気軽に楽しめるとなるとよい。若者たちの歓声がまちの「賑わい」となり、三河安城がスポーツの聖地になることを期待!

まちをつかう 部門

1次審査
通過作品

GOOD!

恒常的で多様性のある
居場所づくり

A-5 であい、ふれあい、 つながる街、三河安城



既存の公園に魅力や特徴を持たせ 住民活動のきっかけに

在来線と新幹線、避難所の機能を持つ公園、平坦で歩きやすい土地形状など、都市の基盤となる要素が整う三河安城。どんぐり公園やドッグランなど、既存の公園に住民生活が豊かになる機能や仕掛けを持たせることで、人と出会い、自然と触れ合い、未来につながる、活気あふれるまちへとグレードアップさせる提案。

受賞者コメント **アコルプラス一級建築士事務所**
中野菜穂子さん ほか1名

日頃から人とゆるくつながる関係を築いておくことは、災害時にも大きな力になると考えます。まずは、既存の公園に、新たな魅力を持たせることから始めてみてはどうでしょうか。

単管パイプによって生まれる 非日常体験と新しい滞留空間

公園や道路などの歩行空間に、単管パイプを使った仕掛けを施すことで、まちに自主的な遊び・憩いの場を創出。ハンモックや日影をつくったり、色をもたらしたり、非日常的な体験や新しい滞留空間を生み出す。イベントなどを開催することで日常的に人が道にあふれ、まちをつかうテラシーの向上や活性化にもつながる。

受賞者コメント **東京理科大学西田司研究室 6名**

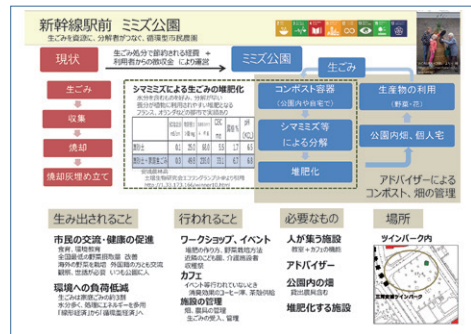
プレゼンでは、実際にゆらゆらパークを楽しんでいただきありがとうございました。安城市への愛着もより強く持てたので、これから一緒にまちづくりを盛り上げていきたいです！

1次審査
通過作品

GOOD!

ミズが地域の中心に!
交流だけでなく
地球にも優しい

A-7 新幹線駅前ミズ公園



生ごみを資源にした、 分解者がつなぐ循環型市民農園

三河安城付近の住宅地開発によって想定される、生ごみ量の増加と環境負荷の増大。また持続的に生産年齢人口を確保するためには、インフラの整備や、子育てしやすい場の確保が必要となる。そこで、現在処分されている生ごみを地域の資源として活用、多くの人をつなげる場所として循環型市民農園を提案する。

受賞者コメント **安城農林高等学校**
松原努さん

学校内での研究成果を、実際の社会に活かしたいという思いで応募しました。コンペを通じて、多くの人に知ってもらえたこと、励ましの言葉ももらったことがうれしかったです。

GOOD!

設置や移動が容易な
単管パイプで空間づくり

1次審査
通過作品

A-10 ゆらゆらぱーく



その他の応募作品

データを活用し
まちづくりに介入

A-2 三河安城美術館



絵画にバラ、好立地を生かして ターミナル駅の機能を充実

新幹線の駅を降りたらすぐアクセスできる、名古屋駅から最も近い美術館を計画。在来線の駅まで続く回廊にはベンチを設置し、ゆったりと絵画が楽しめるように。また駅前広場をバラ園にすることで景観を変えつつ産業化を図る。さらに県外各地にアクセスしやすい立地条件を活かして観光バスターミナルも整備する。

A-6 MaaS 的、ナッジな 交通占いコーナー



市民が自発的に取り組む モビリティ・マネジメント啓発活動

マイカーの利用が多い三河安城駅周辺は、アリーナの新設により渋滞や事故が起りやすくなるなど、交通行動への配慮が求められる。また今後、自動運転が普及すると、駅周辺の交通が混乱することも考えられるだろう。人々が自発的に、社会的に望ましい交通行動を取るよう促す啓発活動として「占い」を提案する。

A-4 moyaiiko! 三河安城



スポーツとテクノロジーで 集い・交わり・賑わうまちへ

アリーナの新設や、安城総合運動公園との関係性を考慮して、三河安城駅前の公共空間にスケートボードや3x3、eスポーツなど新世代のスポーツが楽しめる各施設を設置。また、交流・滞留空間を中心として、最新のデジタルテクノロジーを積極的に活用することで、多くの人が「もやいこ」したくなるエリアを目指す。

A-8 “W,E,D,O”のまちを つかい倒せ!



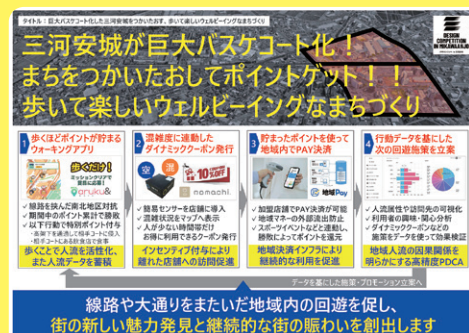
歩きたくなる
魅力的な空間の姿

歩いて巡って交流できる さまざまな機能を持つ魅力的な空間

アリーナとの関係性を踏まえ、日常的に利用する施設に不足している要素を付加して「歩くまち」を形成することで、まちをつかいたおす提案。駅前のロータリーは車の侵入を排除して人中心の空間とするなど、賑わいの要素となる歓喜、熱気、躍動感を感じられる設えを各所にちりばめ、安全に歩いて巡るまちを目指す。

まちをつかう 部門

A-9 巨大バスケットコート化した三河安城をつかいたおす、歩いて楽しいウェルビーイングなまちづくり



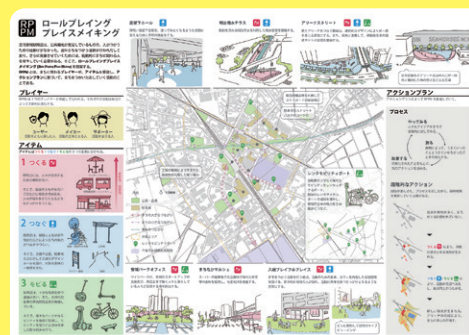
まちを歩くとポイントが貯まる！

アプリやクーポンで回遊を促し、新たな魅力発見と継続的な賑わいを

三河安城駅前は線路や幹線道路によって横断が制限されているが、アリーナの開業に伴い、日常的に来訪者を呼び込み、回遊させる仕組みが必要となる。ウォーキングアプリや、施設の混雑度に連動したクーポン発行、地域内PAYシステムの導入などで回遊を促し、まちの新たな魅力発見と、継続的な賑わいを創出する。

A-11 ロールプレイングプレイスメイキング

活用されていない公共空間の新しいつかい方



プレイヤーがアイテムを駆使しアクションプランでつかいたおす

三河安城駅周辺は公共用地が充実しているものの、市民が利用しやすくなる仕掛けが少ないことから、能動的にまちに関われる“ロールプレイングプレイスメイキング”を提案。プレイヤーはベンチやモビリティなどの「アイテム」を駆使し、「アクションプラン」に基づいて、自らの手でまちをつかいたおすプロセスが楽しめる。

A-12 オトノユ

住民&観光客が地域の魅力を再発見



サウンドマップや足湯によって生まれる新たな憩い・交流の場

三河安城駅周辺はスペースの有効活用が不十分で、休憩場所や賑わい空間が少ない。またウォークアブル推進都市にもかかわらず、まちは閑散としている。そこで、三河安城のまちの音に着目したサウンドマップの配布や、疲れを癒す足湯などを整備することで、新たな憩い・交流の場を創出し、賑わいを生み出していく。

COLUMN 2

まちづくりのプラットフォーム「つかう.meet」とは？

つかう.meetとは、「自慢のまちをつくる」を合言葉に「対話」を行い、また時に「共同活動」を行う、有志によるまちづくりのプラットフォームです。

2020年9月から、月に1回、三河安城駅周辺の屋外の公共空間をつかって、対話の場を開くことから、活動をスタート。これまでに、三河安城駅周辺の公共空間を活用し、まちをつかう活動の象徴的な共同活動となった「つかう.meet.FES」をはじめ、地域の外とのつながりをつくるきっかけとしての対話の場「つかう.meet.異業種交流会」、地域との結びつきをより強いものとする活動を支える倉庫づくり「ソーコネクティッド」など、さまざまな対話と共同活動を重ねてきました。

こうした、つかう.meetの活動をきっかけに三河安城駅周辺における活動者は増え続けており、まちをつかう活動は少しずつ定着し始めています。

また、つかう.meetによる活動は、地域の価値向上を図る先導的な活動として評価され、国土交通省「第1回まちづくりアワード」の構想・計画部門において特別賞を受賞し、活動者たちが自信と誇りを持つきっかけともなりました。

つかう.meetは今後も、活動をブラッシュアップさせることはもちろん、ますます増える活動者を受け入れ、見守り、フラットな関係性を保ちながら、自慢のまちをつくるための活動を継続していく予定です。

